

「古墳視を楽しむ」

[3]古墳の歴史(1)(2C~8C)

皆の広場 素人の古墳考③ 「古墳の歴史(1)」

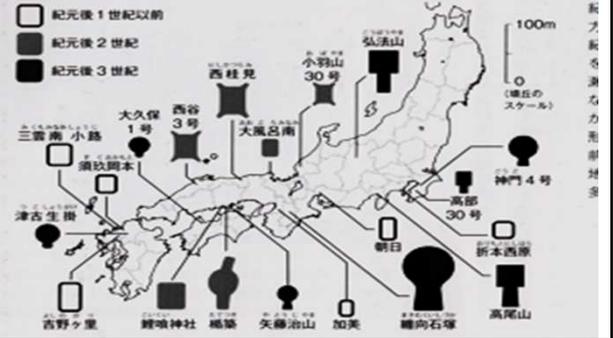
- * (1)弥生時代の墳丘墓(2C~3C)
- * (2)古墳時代移行時期(3C)
- * (3)前方後円墳の変遷(3C~7C)
- * (4)方墳・円墳の変遷
- * (5)各種古墳造出部
- * (6)大和政権全盛期(5C~7C)

2025.5.5 自文科 永野徹

(1)弥生時代の墳丘墓(全国)

①墳丘墓分布図

(時期ごとにみた弥生時代のおもな墳丘墓)



②墳丘墓と古墳の違い

●墳丘墓と古墳の違い

	古墳	墳丘墓
形状例		
出現時代	古墳時代(三世紀中頃~)	弥生時代後期
つくられ方	統一性がある	地域によって異なる
大きさ	巨大なものも存在	古墳と比べると小規模
埋葬施設や副葬品	前期では割竹形木棺を竪穴石室に納め、鏡・武器・農具など、一定の組み合わせの品々を副葬する	埋葬施設は簡素で、副葬品はほとんどない
代表的な形状	前方後円墳・前方後方墳・方墳・円墳など	方形墳墓・方形台状墓・円形周溝墓・四隅突出型墳丘墓・双方中円型墳丘墓など

③平原ヒラハル王墓(2C~3C)九州伊都国
弥生時代墳丘墓:日本最大花文鏡(Φ46cm)5面出土



九州・伊都国王の墓:

④ 楯築墳丘墓 (岡山: 弥生時代後期)
前方後円墳の原型墓? (2世紀頃)

楯築墳丘墓敷地



双方中円墳丘墓鳥瞰図
 (前方後円墳の原型?)



⑤ 墳丘墓から前方後円墳

(弥生時代墳丘墓から古墳へ)



松木武彦 2007『旧石器・縄文・弥生・古墳時代
 列島創世紀 (全業 日本史 1)』より、一部改変。

(2) 古墳時代移行時期 (3C) 卑弥呼時代後
① 奈良県桜井市古墳 (大和説: 卑弥呼古墳)

箸墓古墳 (3世紀半: 後円部150m)



国土交通省 国土画像情報(カラー空中写真) 閲覧

ホケノヤマ古墳 (後円部55M: 國文帯神歌織)



②: 福岡県みやま市古墳 (九州説: 卑弥呼の墓説)

車塚古墳 (前方後円墳)
 L=55M



権現塚古墳 (円墳)
 L=48M



③ 四隅突出墳丘墓(出雲王国)

(1-2) 仲仙寺古墳



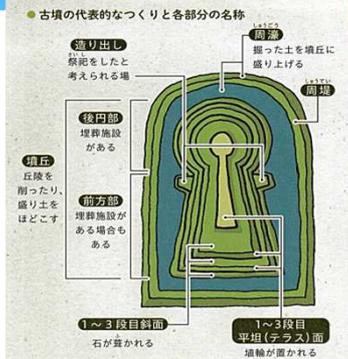
- (仲仙寺古墳)
- ・四隅突出古墳: 古墳時代前期
4世紀初、出雲独特の四隅突出古墳
 - (造山古墳)
 - ・隣接する造山古墳は大陸影響の方墳と出雲独特の前方方墳(6C末)とが混在

④ 四隅突出型墳墓分布図



(3) 前方後円墳の変遷

① 前方後円墳の部位名称



② 前方後円墳 の変遷

(大和政権時代)

(前期) 3C半~4C末

- ・前方部は古墳の参道
- ・竪穴石室
- ・粘土槨・割竹形木棺
- ・西殿塚古墳(天理)
- ・メス川山古墳(桜井)
- ・茶臼山古墳(桜井)

(中期) 4C末~5C末

- ・古墳巨大化(岡溝・陸塚)
- ・竪穴式石室
- ・長持形・舟形石室

(後期) 5C末~7C初

- ・前方部巨大化
- ・横穴式石室

時期	前期 (3世紀中頃~4世紀後半)	中期 (4世紀末~5世紀後半)	後期 (5世紀末~7世紀初め)
形状	前方後円墳はくびれ部が狭く、前方部が未発達	前方後円墳が巨大化して周囲に周溝や陸塚(大型の古墳を主墳とし、その周囲に付属する小規模の古墳)をめぐらす	前方部が発達して後円部を凌駕する
内部構造	竪穴石室、粘土槨、割竹形木棺など	竪穴石室、木棺、長持形石棺、舟形石棺など	横穴式石室が全国に普及
副葬品	鏡、装身具、碧玉製品、武器、農工具など	鏡、装身具、武器、馬具、農工具など	鏡、装身具、武器、馬具、須恵器など

③前方後円墳 形状変化

● 前方後円墳の形状の変化

前期型

バネ形

前方部先端がバネのよう広がる。後円部は前方部より高い

おもな古墳：箸墓古墳、横井大塚山古墳、桜井茶臼山古墳、メスリ山古墳など

楕圓形

前方部が細長い楕圓形。後円部が前方部より高い

おもな古墳：桜井茶臼山古墳、メスリ山古墳など

中期型

前方部が発達。幅が後円部を超える

おもな古墳：大山古墳、豊田御廟山古墳など

後期型

前方部の幅や高さが中期型より広く、後円部を超える

おもな古墳：今城塚古墳、見瀬丸山古墳など

(前期) 前方部は登り道

- 後円部が高い、埋葬施設
- 前方部広がるバネ型
- 前方部が細長い柄鏡

箸墓古墳、横井大塚山古墳、桜井茶臼山古墳、メスリ山古墳

(中期) 前方後円墳巨大化

- 前方部が後円部より幅広い

大山古墳・豊田御廟山古墳

(後期) 登穴→横穴式石室

- 前方部の幅・高さも後円部を超える

今城塚古墳・見瀬丸山古墳

③前方と後円接続部 (3C~5C)

(以下は民族博物館松木博士の見解)

- 最初の大型前方後円墳は箸墓古墳
- 3世紀中頃 箸墓古墳は後円部が4段で前方部各段とは上手く繋がらないが前方頂部は後円部4段と何とつながる
- 4世紀中頃、景行天皇陵で1段ずれは有るがつけようと試みている
- 4世紀後半の神功皇后陵では段ずれは解消されずに上面のスロープだけはつながった。
- 5世紀前半の埴山古墳で段も上面も完全につながり完成型となる。この時、後円部との取合部に造り出しが誕生。

(前方後円墳の発達から完成へ)

(4)方墳と円墳の変遷 (3C~5C)

● 多彩な古墳の形状

- 方墳(3世紀まで)
- 円墳(5世紀半以降)

- 古墳の圧倒的多数を占めるのは円墳と方墳
- 初期段階(5世紀半)までは方墳が多かった。
- 5C中以降は殆ど円墳となるが
- 6C後半以降は横穴式石室タイプが増える
- 前方後円墳が無くなる
6C後半からは2段の大型方墳となる

*

(5) 各種古墳の造出部

● 多彩な古墳の形状

(6) 大和政権全盛期古墳 (5C)

※4世紀頃から大陸との交流が盛んになり、大和政権の戦略として大陸勢力に巨大古墳(巨大前方後円墳)を誇示する意図で奈良桜井から古市・百舌鳥へと拠点を移動した可能性が高い。

1) 古市古墳群(123基) : 4C初~5C初

古市古墳群は大阪府藤井寺市と羽曳野市に展開する
 菅田御廬山古墳(425m、全国2位の大きさ)、市野山古墳(允恭天皇)
 仲津山古墳、津堂城山古墳、葛山古墳、軽皇大塚古墳

2) 百舌鳥古墳群(5C初~5C末)

百舌鳥古墳群は大阪府堺市の東西4kmに展開する古墳群。
 大仙古墳(仁徳陵?、525m、日本最大) 御廬山古墳
 いたすけ古墳、上石津ミサンザイ古墳(履中天皇陵)

1) 百舌鳥古墳群(航空写真)



① 百舌鳥古墳群

大仙古墳(仁徳)・上石津ミサンザイ(履中)・土師ニサンザイ(反正)



百舌鳥古墳群

② 大仙陵古墳(仁徳天皇陵)日本一 世界文化遺産(百舌鳥・古市古墳群)2019

(大仙陵古墳)前方後円墳5C半

1. 前方後円墳(日本一)
2. 宮内庁(仁徳天皇陵)
3. 百舌鳥耳原中陵(治定)
4. 築造:5C中441~460頃)
5. 墳長:L525.18m,H39.8m
6. 築盛:前方後円3段
7. 三重堀、左右に造出し
8. 後円部:竪穴式石室
長持形石棺



2)古市古墳群(空中写真)



①古市古墳群マップ 古墳入門(松木)

菅田御廟山(応神)、仲ツ山(仲ツ媛)、岡ミサンザイ(仲哀)、市ノ山(允恭)



②菅田御廟山古墳(応神天皇陵)

世界文化遺産(百舌鳥・古市古墳群)2019

(菅田御廟山古墳):5C前半

1. 前方後円墳(全国2位)
2. 宮内庁(応神天皇陵)
3. 恵我薬伏崗陵(治定)
4. 築造:5C初401~420頃)
5. 墳長:L425m,H36m
6. 築盛:前方後円、3段
7. 二重堀、左右に造出し
8. 後円部:竪穴式石室
長持形石棺、陪塚5基

